様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 24 日現在

機関番号：１６１０２
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５２０５６７

研究課題名（和文）　英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発

研究課題名（英文）　Designing Teacher Training Programs to Foster Classroom English Ability

研究代表者
山森　直人（YAMAMORI NAOTO）
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号：３０３４６６２１

研究成果の概要（和文）：
本研究では、小学校の外国語活動および中学校・高等学校の英語科授業における教員の教室英語（クラスルーム・イングリッシュ）を使用する力（教室英語力）を育成するための具体的方策を理論的かつ実践的に体系化し、(1)教室英語力スタンダード(特に小学校外国語活動用)、(2)教室英語力育成トレーニングプラン、(3)教室英語力育成支援ツールから構成される教員養成用および教員研修用のプログラムを開発した。

研究成果の概要（英文）：
In this research project, pre-service and in-service teacher training programs were developed based on theoretical and practical consideration in order to foster teachers' ability to use classroom English in foreign language activities at elementary schools and in English language classes at junior and senior high schools. The programs include: (1) the standards for teachers' skills to use classroom English, (2) the training plans to foster the skills, and (3) the tools to support fostering the skills.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学、外国語教育
キーワード：外国語教師養成、教室英語、教師教育、英語科教育、外国語活動、クラスルーム・イングリッシュ、教員養成、教員研修

１．研究開始当初の背景

文部科学省は 2002 年 7 月に「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」を策定し、その中で中学校・高等学校の英語科教員が備えておくべき英語力として、英検準１級、TOEFL550 点、TOEIC730 点程度という数値を設定し、「英語教員の採用の際に目標とされる英語力の所持を条件の１つとする」ことや「教員の評価に当たり英語力の所持を考慮する」ことを要請するとうたっている。この

ような現実をうけてであろうか、教員採用試験において英語資格試験の結果をもとに英語の実技試験や筆記試験を免除するなどの措置をとる都道府県・市が多い（日本英語検定協会、2004; 財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会､2005)。もちろん、多くの識者が指摘するように、教員の英語指導力において、英語資格試験の成績は必要条件ではあっても十分条件ではない（山森、2006)。

また､2003 年 3 月に文部科学省が公表した「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」には「英語の授業の大半は英語を用いて行い、…」や「…、教員は、普段から主に英語で授業を展開しながら、…」とある。しかし、教員が授業のどの場面でどのような英語を使用すべきかについて十分に説得力のある見解はみられない。

そして､2008 年 3 月に告示された新学習指導要領では小学校において外国語活動が必修化されることになり、教室英語力の育成は、中学・高等学校の英語科教員だけの問題ではなく、小学校教員の問題へと拡張された。特に小学校教員の教室英語力の育成は避けては通れない問題であり、教員養成段階や教員研修において、同問題に対処するための具体的な方策の検討が早急に求められる。また同時に 2009 年度から正式に始まった教員免許更新制においても、教室英語力の育成・伸長は小学校教員および中学校・高等学校の英語科教員にとってニーズの高いテーマになると考えられる。

このような状況を背景に、研究代表者は英語指導者が使用する教室英語の分析枠組みの構築、及び、教育学部生や現職教員を対象とする､教室英語を使用する力（教室英語力）の育成のためのプログラム開発を目的とした一連の継続的研究を行ってきた。山森（2006）では、英語科教員に求められる英語力の概念枠組みを構築し、山森（2007a）では、教室英語の教育的機能を体系的に整理し、教室英語を観察・自省するための教室英語の分析枠組み FORCE（Framework for Observing and Reflecting Classroom English）を構想した。そして、山森（2007b）では FORCE を使用して英語科教育コース生が教育実習授業において用いた教室英語の特徴を分析するとともに、実習授業を省察するための道具としての同分析枠組みの有効性を検証した。さらに、山森（2007c）では、教育実習前後における英語科教育コース教育実習生の教室英語使用に関する意識を質的に追究し、問題点を明らかにした。

以上の背景と成果をふまえ、本研究では、教員養成および教員研修において小学校教員・中学校英語科教員の教室英語力を育成するプログラムを構築することを目的とした。

２．研究の目的

本研究の目的は、小学校外国語活動や中学校（後に高等学校を含む）英語科授業における教員の教室英語(Classroom English)を使用する力(教室英語力)を育成するための、教員養成(pre-service training)および教員研修(in-service training)用のプログラムを開発することにある。具体的には、教員養成および教員研修において教室英語力を育成するための具体的方策を理論的かつ実践的に体系化し、(1)教室英語力スタンダード、(2)教室英語力育成トレーニングプラン、(3)教室英語力育成支援ツールから構成されるプログラムを開発する。

３．研究の方法

(1) 2010 年度

2010 年度の目的は、教室英語力の使用・育成に関わる①文献調査と②現状分析を中心に理論的考察を進めると同時に、③小学校教員と中学校英語科教員に求められる教室英語力、および、英語力と教室英語力との関係を明らかし、それらの結果をもとに教室英語力スタンダードを構想することにあった。その具体的な実績は次の通りである。

① 文献調査

教師教育、授業研究・談話分析、第二言語習得研究に関する文献を収集・読み込み、同分野における最近の傾向や教室英語との関連性についての理論的考察を進めた。同時に、教室英語力育成支援ツールを開発するための基礎的な情報を得るために、教室英語力や英語力の育成のためのさまざまな資料（教材、DVD ソフト等）を収集した。

② 教室英語使用の現状の把握

徳島県の公立小学校、中学校、高等学校の教員を対象にアンケート調査を実施した。

③ 教室英語力スタンダードの構想

英語力標準テストにもとづく英語力と教室英語力との関係解明という研究の方向性の妥当性を検討するのと同時に、英語科教育コース生の英語力標準テストのスコアと教育実習授業（教室英語使用状況）の映像を収集した。FORCE に修正を加え、小学校用と中学校・高等学校用の教室英語力スタンダード暫定版を作成した（上記②のアンケート調査の質問項目は同スタンダードをもとに作成された)。

④ その他

同年度以前に実施した教育学部生対象の教室英語力育成を目的とする授業の内容を、教室英語力育成トレーニングプランとして準備的に再整理し、実施した。

(2)2011 年度

2011 年度の目的は、①文献調査の継続、②教育実習生・現職教員の教室英語使用に関するデータの収集・分析にもとづく教室英語力スタンダードの改良、③同スタンダードにもとづく教室英語力育成トレーニングプランの構想と試行的展開、④教室英語力育成支援ツールの開発、⑤研究成果の公表、であった。その具体的な実績は次の通りである。

① 文献調査

第二言語習得研究等に関する最近の動向をふまえながら、特に小学校外国語活動における教室英語使用のあり方に関して理論的考察を深めた。

② 教室英語力スタンダードの改良

英語科教育コース生の英語力標準テストのスコアと教育実習授業（教室英語使用状況）の映像を収集した。また、学校現場における教室英語使用の現状を把握するために、小学校教員及び中学・高校英語科教員を対象に面接調査を行った。特に小学校については外国語活動の授業観察・分析を進め、①の成果もふまえながら外国語活動のための教室英語力スタンダードについて考察し、論文にまとめた。

③ 教室英語力育成トレーニングプランの構想と試行的展開

上記①②の成果にもとづき、外国語活動における教室英語使用のトレーニングプランを構想し、支援依頼のあった小学校の校内研修会や地域研修会において実施した。また、中学・高校英語科教員を対象としたトレーニングプランについても検討し、公開講座や免許更新講習において実施した。同時に教育学部生対象の授業において教室英語力育成トレーニングプランを改良・実施した。

④ 教室英語力育成支援ツールの開発

以上の校内・地域研修会や公開講座・免許更新講習および授業における教室英語力育成支援ツールとして、トレーニング用ワークシートや自己省察用ウェブ掲示板（授業のみ）を作成あるいは改良して使用した。

⑤ 研究成果の公表

2010 年度に実施した教員養成学部における教室英語力を育成するための授業プログラムの実践報告を学会発表し、論文として公表した。また、2010 年度に実施した小学校教員と中学・高校英語科教員に対する、教室英語力に関するアンケート調査の結果をまとめ、その一部を論文として公表した。

(3)2012 年度

2012 年度の目的は、①教室英語力に関わる文献調査の成果のまとめ、②教育実習生・現職教員の教室英語使用に関するデータの収集・分析にもとづく教室英語力スタンダードの継続的改良、③教室英語力育成のためのトレーニングプランの発展的改良と試行的展開、④教室英語力育成支援ツールの継続的開発、そして、以上の成果を総合的にふまえた⑤教室英語力育成プログラム全体の整理と研究成果の公表、にあった。その具体的な実績は次の通りである。

① 文献調査

教室英語力の使用・育成に関わる文献調査を進めた。

② 教室英語力のスタンダードの継続的改良

2010、2011 年度に収集した、教育実習生および現職教員の教室英語使用に関する意識や英語使用の現状に関するデータを分析した。その結果と、上記①文献調査の成果をふまえ、教室英語力スタンダードの改良を継続的に進め、特に小学校外国語活動用のスタンダードを再構成した（小学校外国語活動用 FORCE)。

③ 教室英語力育成トレーニングプランの発展的改良と試行的展開

上記①②の研究結果をふまえて、前年度までに構想・試行してきた教員養成用および教員研修用トレーニングプランを改良し、それぞれ教育学部生を対象とする授業と現職教員を対象とする教員研修（大学公開講座、免許更新講習）において実施し、その成果を総括的に評価し課題を整理した。

④ 教室英語力育成支援ツールの継続的開発

上記プランにおいて使用する教室英語力育成支援ツールとして、教員養成の授業において使用する授業資料・ワークシート・自己省察用ウェブ掲示板を改良、関連資料閲覧コーナーを設置、さらに教育実習用の教室英語使用ガイドを作成した。また、教員研修における配布資料についても改良を施した。

⑤ 研究成果の公表

以上の研究と実践を通じて、教室英語力育成プログラム全体を整理すると同時に、研究と実践の結果や成果を英語教育関連の学会において口頭発表し、論文にまとめ投稿した。特に、教員による教室英語使用の実態調査の結果については徳島県内の小学校・中学校へ資料を送付し報告した。

４．研究成果

本研究の成果は、教室英語力を育成するための教員養成および教員研修用のプログラムを構成する(1)教室英語力スタンダード、(2)教室英語力育成トレーニングプラン、(3)教室英語力育成支援ツール、の開発にあり、以下それぞれについて順番に説明する。

(1)教室英語力スタンダード

教室英語力スタンダードとは、英語授業（外国語活動を含む）における教師の英語使用の方向性を示す枠組み、あるいは、英語教員（外国語活動担当の小学校教員を含む）が授業における自分自身の英語使用についてふり返るための指標である。山森（2007a、2007b）では、第二言語習得研究、近年の日本の英語教育の動向、および英語科教育実習生の実習授業における英語使用の実態と課題をふまえ、教室英語力スタンダード FORCE (Framework for Observing and Reflecting Classroom English) を構想した。FORCE は、教室英語使用に関わる以下の４つの基本的教育機能から構成されている。

＜FORCE 基本的教育機能＞
A:正しい英語の構造への気づきの促進
B:授業運営、授業の雰囲気づくり
C:英語の内容理解の促進
D:表現内容のふくらまし、構造との関係づけ

FORCE には、これらの基本的教育機能を基盤に、教室英語の具体的な使用項目（例えば、「物事や現象について描写することができる」「児童・生徒の発話を再度述べることができる」など全 24 項目（のちに 25 項目））が集約されている。

しかし、同 FORCE は、外国語活動の理念（目標・内容）が小学校学習指導要領によって公表される以前に、学校英語教育全般における教師の英語使用の方向性を体系的に整理することを目的に作成された枠組みである。したがって、外国語活動の理念に適った部分もあればない部分もあった。本研究を通して、外国語活動における教員の英語使用の理論的方向性を検討するのと同時に、外国語活動における教員の英語使用の現状をふまえ、外国語活動を担当する教員に求められる教室英語力の枠組みとして「小学校外国語活動用 FORCE」を再構成した。同 FORCE は次の 4 つの基本的教育機能（教室英語使用全 23 項目）から構成されている。

＜外国語活動用 FORCE　基本的教育機能＞
A: 英語使用の模範の提示
B: 授業運営、授業の雰囲気づくり
C: 関係づくり
D: 関係の基盤づくり

具体的な内容については、本報告書「５．主な発表論文等」の論文②④を参照のこと。

外国語活動用 FORCE が開発されたことで、元来の FORCE は「中学校・高等学校英語科用 FORCE」と改名し、教室英語使用項目を表す文言を中学・高校の実態に適合するように修正した。

(2)教室英語力育成トレーニングプラン

教室英語力スタンダード FORCE にもとづき、小学校外国語活動および中学・高校英語科授業における教員の教室英語を使用する力を育成するための、①教育学部生を対象とする教員養成用トレーニングプランと、②小学校教員を対象とする教員研修用および③中学・高校教員を対象とする教員研修用のトレーニングプランを構想した。

①　教育学部生対象プラン
＜目標・主旨（作業課題）＞
初等中等学校において英語授業を展開するために必要な教室英語（classroom English）のスキルを養う。

＜トレーニングプラン＞
プランは上記の目標・主旨のもと 1 回 90 分間の授業計 16 回から構成される。まず、最初の 2 回分の準備的授業（第 1-2 回）では、FORCE を用いた参加者（受講生）の教室英語力に関する自己評価と実力診断が行われる。次に、通常授業（第 3-14 回）が 12 回実施される。一授業の流れは次の通りである。

授業前：
　シャドーイング・トレーニング
授業中：
　1)シャドーイングの確認　　(20 分)
　2)教室英語表現トレーニング　(15 分)
　3) 反応トレーニング　　(15 分)
　4) 描写トレーニング　　(20 分)
　5) 自由会話　　(20 分)
授業後:
　電子掲示板による自己・相互省察

最後に、2 回分の総括的授業（第 15-16 回。最終試験含む）において自己評価と実力診断が行われ、参加者は自分自身の教室英語力の成長と課題を確認して全過程を終了する。具体的な内容と成果については、本報告書「５．主な発表論文等」の論文①⑤を参照のこと。

②　小学校教員対象プラン
＜目標・主旨（作業課題）＞
1)小学校外国語活動における教師の教室英語使用の意義と方法を理解し、2) 自分自身のこれまでの教室英語の使用状況（あるいは考え方）をふり返るとともに、3)その具体的

なトレーニングを通して、自分自身の教室英語力を育成するための方向性を考える。

＜トレーニングプラン＞
プランを次のように2段階構成とした。

第1段階：外国語活動の初任教員対象
教育機能A（英語使用の模範の提示）
教育機能B 授業運営、授業の雰囲気づくり
第2段階：外国語活動の経験教員対象
教育機能C（関係づくり）
教育機能D（関係の基盤づくり）

第1段階では、外国語活動の初任教員を対象とし、外国語活動用FORCEのなかでも、定型的で授業前の準備が比較的容易な教育機能AとBの教室英語を扱うこととした。これらの教室英語は外国語活動に関する研修で頻繁に扱われる項目でもある。一方、第2段階では、外国語活動の経験教員を対象とし、その使用が比較的難しい教育機能CとDの教室英語を扱うこととした。特に第2段階の教室英語力を育成する研修を、反応力を育成する研修と描写力を育成する研修に分類し、各研修で行うトレーニングを次のように整理した。

プラン①　反応力を育成する研修
こたえるトレーニング
ふかめるトレーニング
ひろげるトレーニング
プラン②　描写力を育成する研修
えがくトレーニング
たずねるトレーニング
うながすトレーニング

また、各研修の流れは次の通りである。

1)作業課題の確認
2)教室英語の使用状況や考え方・課題の共有
3)教室英語使用の意義と方法に関する講義
4)教室英語トレーニングによる演習
5)作業課題にもとづくふり返り

研修の大枠については本報告書「５．主な発表論文等」の論文②③を参照のこと。研修の具体的な内容については論文にまとめ投稿中である。

③　中学・高校英語科教員対象プラン
＜目標・主旨（作業課題）＞
1)教室英語を使用する意図や教室英語の役割・機能について理解する。
2)自分自身の教室英語使用の現状と課題を自己認識あるいは再認識し、将来の教室英語使用のあり方を再考する。
3)教室英語トレーニング演習を通じて、1)2)の理解や認識・思考を実感する。

＜トレーニングプラン＞
1)オリエンテーション
2)教室英語使用の意義と方法
3)教室英語使用の現状と自己分析
4)教室英語のトレーニング演習1
5)教室英語のトレーニング演習2
6)ふりかえり

研修の具体的な内容については、論文にまとめ、投稿中である。

(3)教室英語力育成支援ツール
教室英語力育成支援ツールとして、①トレーニング用ワークシート、②自己・相互省察用の電子掲示板、③教育実習用教室英語使用ガイド、④教室英語関連資料閲覧コーナー、を考案した。具体的には次の通りである。

①　教室英語力トレーニングワークシート
1)教育学部学生対象のワークシート、2)小学校教員対象のワークシート、3)中学・高校英語科教員対象のワークシートを作成あるいは改良した。いずれのワークシートも「反応力」と「描写力」の育成を主な目的としている。上記1)の具体的な内容については、本報告書「５．主な発表論文等」の論文①に一部情報を掲載している。また、2)3)の内容については現在投稿中である。

②　自己・相互省察用の電子掲示板
特に教育学部生対象の教室英語力育成トレーニングプラン（大学における授業）において、教室英語に関する用語を用いて参加者（受講生）が自分自身の教室英語について自己認識・自己分析する力を養うことを目的とする。
参加者は毎回のトレーニング（授業）後に自己省察をウェブ上の電子掲示板に投稿する。自己省察の内容は実施したトレーニングの内容にもよるが、基本的な観点は「反応力」と「描写力」であり、参加者はトレーニング期間を通じて自分自身の教室英語力を毎回ふり返ることになる。また、他の参加者の自己省察を閲覧することができ、その意味では相互省察の場でもある。さらに、トレーニングの全過程終了時に自分自身の過去の省察全体をふり返り、自分の成長や課題を自己認識するためにも使用される。具体的な内容については、本報告書「５．主な発表論文等」の論文⑤を参照のこと。

③　教育実習用教室英語使用ガイド
教育学部生が中学・高校において英語科教育実習に参加する際に、彼・彼女らの実習授業における教室英語の使用を支援するためのツールとして作成したものである。内容は次の通りである。

1)教室英語の基本的な教育機能
2)教育実習中の教室英語使用に関する目標設定
3)教育実習期間中の教室英語使用の計画
4)教室英語使用の表現と具体例
5)教室英語観察記録
6)実習授業でのあなたの教室英語使用の自己分析

同ガイドは現段階では試作版であり、教育実習における学生の使用を通してフィードバックを受け修正を加えた後、公表予定である。

④　教室英語関連資料閲覧コーナーの設置
教室英語力に関する図書、例えば教室英語の表現集や発音に関する教本などを収集し、英語科教育実習に臨む学生や大学の公開講座や免許更新講習を受講する現職教員が閲覧可能なように配備したものである。

＜１から４に関わる引用文献＞
財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (2005).「TOEIC□テスト教員採用試験における活用状況 2005」
日本英語検定協会 (2004).「資格取得者の優遇制度―教員採用試験」http://www.eiken.or.jp/advice/treatment/teacher.html
山森直人. (2007a)「英語教師が授業で用いる英語の教育的機能―教室英語の分析枠組み(FORCE)の構想の試み―」『鳴門教育大学研究紀要』22、161-174. (CD-ROM 版)
山森直人. (2007b)「教室英語の分析枠組み(FORCE)の有効性の検証―英語科教育実習生の事例分析を通じて―」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』 4、37-53.
山森直人. (2007c)「英語科教員養成における教室英語の指導に関する基礎的研究」第 33 回全国英語教育学会大分研究大会　口頭発表 (2007 年 8 月 5 日、大分大学旦野原キャンパス)
山森直人. (2006)「英語教師に求められる英語力の概念枠組みの構築」『鳴門英語研究』19、145-167.

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕(計 7 件)
① 山森直人、教育実習生の教室英語力の認識に関する事例研究、*Annual Review of English Language Education in Japan* (*ARELE*)、査読有、2013、Vol.24、307-322

② 山森直人、外国語活動に求められる教師の教室英語力の枠組みと教員研修プログラムの開発―理論と現状をふまえて―、小学校英語教育学会学会誌(*JES Journal*)、査読有、第 13 号、2013、195-210

③ 山森直人、中学校英語科授業における教師の英語使用に関する調査、四国英語教育学会紀要、査読有、第 32 巻、2012、29-42

④ 山森直人、小学校外国語活動における教師の英語使用に関する理論的考察―教室英語力育成のための教員研修プログラムの開発を目指して―、日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要、査読有、第 31 号、2012、41-63

⑤ 山森直人、英語科教員養成課程における教室英語力育成のための実践的試み、*Annual Review of English Language Education in Japan* (*ARELE*)、査読有、Vol.23、2012、373-388

〔学会発表〕(計 4 件)
① 山森直人、英語科教育実習生の教室英語使用に関する研究、第 38 回全国英語教育学会愛知研究大会、2012 年 8 月 4 日、愛知学院大学日進キャンパス (愛知県)

② 山森直人、外国語活動における教師の英語使用に関する実態調査 2 ―教室英語力育成のための教員研修プログラムの開発を目指して―、第 12 回小学校英語教育学会千葉大会、2012 年 7 月 16 日、千葉大学教育学部 (千葉県)

③ 山森直人、英語科教員養成課程における教室英語力育成のための実践的試み、第 37 回全国英語教育学会山形研究大会、2011 年 8 月 20 日、山形大学 (山形県)

６．研究組織
(1)研究代表者
山森　直人 (YAMAMORI NAOTO)
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号：３０３４６６２１

(2)研究分担者
該当者なし

(3)連携研究者
該当者なし